

<Q&A>

Q1 AED（自動体外式除細動器）とはどのようなものですか？

A1 AEDはAutomated External Defibrillator の略です。日本語では自動体外式除細動器と呼んでいます。

AEDは電極パッド（2枚）を、胸に貼ると、自動で心臓の状態を診断し、必要な時のみ電気ショックを与えます。心臓が小刻みに震え、けいれんした状態（心室細動）になっている場合は酸素を含んだ血液を全身に送ることができなくなり10分程度で死に至ります。AEDはそのけいれんした心臓に電気ショックを与え、正常な心臓のリズムに戻す機能を持っています。除細動とは心臓のけいれんを除くという意味で、体の表面から電気ショックを与えるので体外式と呼んでいます。

Q2 AEDの使用は一般の人でも行えますか？

A2 AEDを使用するのに特別な資格は必要ありません。

平成16年7月に一般の方にも使用が可能となりました。音声ガイダンスに従って使用すれば、AED自体が電気ショックの必要性を判断します。AEDには安全装置が付いており正常な人には作動しません。使用するかどうか迷ったら、勇気を持って使ってください。

Q3 なぜ一般の人でも使用可能となったのですか？

A3 心臓にけいれんが起こってから、何もしないと、生存率は1分ごとに約10%ずつ減少していきます。通報してから救急隊が来るまでには平均9分程度かかり、救急隊の到着を待っているのは助かる可能性は低くなってしまいます。救命率の向上の為に、その場に居合わせた人の力が必要です。

Q4 心肺蘇生の実施やAEDの使用が失敗した場合、責任を問われるのですか？

A4 現場に居合わせた一般の方が善意で行った場合は、救命に成功しなくても罪に問われることはありません。

*法律では、民法第698条（緊急事務管理）、刑法第37条（緊急避難）に規定されています。

Q5 AEDは男女・年齢問わず誰に対しても使えますか？

A5 意識・呼吸のない人に対してであれば、誰に対しても使う事ができます。

成人と小児では電気ショックのエネルギーが違うので、切り換え機能を用いたり、小児用のパッドに取り換える等して、適切なショックを与えてください。

○ 成人モード：小学生以上。

○ 小児モード：0歳～未就学児童。

年齢がわからない場合や切り換え機能や小児用パッドがない場合は成人モードで使用してください。

Q6 AEDを使う際、講習を受けていなくても使えますか？

A6 講習を受けていなくても使うことは可能です。

その場に居合わせた人同士で手助けをすることで、救命率は上がります。電源を入れれば音声ガイダンスが始まりますので、それに従って操作してください。119番に電話をするとAEDの使い方を電話口で教えてくれますので、安心して使うことができます。

Q7 AEDはメーカーによって使い方が違いますか？

A7 基本的な操作はどれも同じです。

電源を入れると音声ガイダンスが流れるので、それに従って操作してください。最近では、AED本体の液晶画面が推移していくことでAEDの操作方法や心肺蘇生の手順を示すタイプのももあります。高齢者や聴力障害者、外国人の方にも使用できるようになっています。

Q8 AEDはどんな所に設置されていますか？

A8 主に人の集まる駅やデパート、公共施設、学校、スポーツ施設、会社事務所、工場、店舗、一部のコンビニなどに設置されています。

Q9 AEDの管理はどのようにすればいいですか？

A9 AEDのインジケータの色や表示により、AEDが正常に使用可能な状態を示しているか、日常的に点検してください。また、消耗品（パッドやバッテリー）には使用期限や寿命がありますので、日頃から把握して適切に交換をしてください。日常の点検が難しい場合には、販売業者、製造販売業者がサポートサービスを提供している場合がありますので、活用を検討してください。

不明な点は、販売業者、貸与業者、製造販売業者にお問い合わせください。

Q10 AEDを屋外に置きたいのですが可能ですか？

A10 AEDの待機温度を確認してください。一般的なAEDは待機温度が0度～50度ですが、待機温度の許容温度が狭く寒冷地だといざという時に使えない可能性のあるAEDもあります。その場合は、ヒータや冷却機能が付いた屋外用の収納ケースを検討してください。

Q11 救助者が一人だけで他に誰もいない場合、AEDを取りに行くべきですか？

A11 傷病者に意識・呼吸などの反応がなければ、ただちに119番通報し、近くにAEDがあることがわかっていれば取りに行ってください。また、消防から電話口でAEDの設置場所を指示された場合は速やかに取りに行ってください。それ以外の場合は、胸骨圧迫（1分間に100回～120回）を開始してください。

Q12 心臓のけいれんは何が原因で起こりますか？

A12 心臓のけいれんは、心筋梗塞や不整脈の疾患を持っている方に起こりますが、心臓震とうと言って、病気ではない健康な心臓でも起こります。例えば、フットサルのボールを胸で強く受けたり、野球のピッチャーが打球を胸で強打した場合等で起こることがあります。その他、感電、薬物中毒などでも起こります。

Q13 AEDの電極パッドを右胸と左脇腹に貼っている間も胸骨圧迫は必要ですか？

A13 救助者が二人以上いる場合は、できるだけ胸骨圧迫を続けながら素早く貼ってください。救助者が一人だけの場合は、電極パッドを貼るために胸骨圧迫を中断しますが、なるべく早く胸骨圧迫を再開してください。胸骨圧迫の中断時間が短いほど傷病者の救命率の向上が期待できます。

Q14 電気ショックを行う際はどのくらい離れば良いですか？

A14 基本的には傷病者に触れなければ大丈夫です。周囲にいる人が誤って触れてしまわないように距離をとってください。

Q15 AEDはどのくらいの電圧・電流ですか？

A15 電圧は1,200~2,000V（ボルト）で、電流は30~50A（アンペア）、電気が流れる時間は数ミリ秒~十数ミリ秒程度です。

Q16 AEDを使用した後はどうしたらいいですか？

A16 使用した電極パッドを新しいものに交換してください。また、バッテリー残量を確認し、必要であれば新しいものに交換し、使用できることを確認した上で、元の場所へ戻してください。

Q17 救急隊が到着するまではどのようにしたら良いですか？

A17 AED本体の音声ガイダンスに従って、胸骨圧迫（1分間に100回~120回）を続けてください。傷病者の意識が戻り、体を動かすようになったら、電極パッドは傷病者からはがさずに体を横に向けた安静体位で救急隊の到着を待ちます。その際、AEDの電源は入れたままにして待っていてください。AEDは2分ごとに心電図の診断を行い、傷病者の心電図の変化を見守ります。